

経済産業省での業務について —安全保障貿易管理政策課 技術調査室の取り組み—

経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理部
安全保障貿易管理政策課 技術調査室
安全保障貿易管理調整官 牟田 浩明

私は昨年10月より、環境エネルギー工学専攻から経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理部 安全保障貿易管理政策課 技術調査室に出向しております。本稿では、経産省での仕事等について紹介いたします。

●経済産業省との人事交流

大阪大学から経済産業省への教員の出向は10年近く前から行われており、現在共創機構の北岡 康夫先生から始まり、ビジネスエンジニアリング専攻の倉敷 哲生先生、フューチャーイノベーションセンター 原 圭史郎先生、ビジネスエンジニアリング専攻 中川 貴先生がこれまで赴任されています。私は5人目にあたり、前任の皆様と同じ部署（組織改組に伴い、製造局から2018年に現部署に変更）に配属されています。また、経済産業省からは秦 茂則先生が共創機構に来られており、研究科と省のあいだで双方向の人事交流が進められています。

●課での業務について

我々の課では、いくつかの国際レジームに基づいた、

輸出管理すべき機微技術の調査・特定を行っています。機微技術といえば従来は安全保障、つまり軍事的なものが主だったようですが、その対象はいまAI、量子技術、ロボティクス、大容量電池、宇宙技術、新素材など非常に多岐にわたっています。これらの重要技術の動向・保有者等を調査によって「知り」、振興する政策により「育て」、また技術流出等を止め「守る」というのが課の目的になります。調査していると、この技術・材料にこんな使い方があるのか、と驚くことが度々あります。また言うまでもなく、これらの重要技術は生活や産業にも大きなインパクトを与えるものです。ゲームチェンジとなりうる画期的な研究・技術は、より豊かな生活をもたらすとともに軍事的な優位性を持つことにもつながり、経済と安全保障は切り離せなくなっていることを業務のなかで実感しています。

この経済安全保障の観点から、国際情勢、特に米中対立についての情報にも日々接します。対立の基軸のひとつは、これら重要技術の自国での育成と流出の防止にあり、露骨と言っていいほどの相手国の技術の封じ込め、



図1 安全保障貿易管理に関するリーフレット「先生!!ちょっと待ってください!!」
https://www.meti.go.jp/policy/ampo/seminer/shiryo/setsumei_senseimatta.pdf

あるいは工場誘致等に伴う技術の搾取等が行われています。本稿を書いているいま（2021年10月初旬）、岸田政権が発足し、新しく経済安全保障担当相として小林鷹之大臣が任命されたことからわかるように、経済安全保障は現在非常にホットな課題であり、他省庁含め活発な政策立案が進められています。また、この重要技術に関しては大学における技術流出も強く懸念されているところです。図1は大学教員に注意を促すリーフレットの抜粋です。

今後、大学における保有技術管理もより厳格になる見込みですが、将来は米国の制度などを参考に、セキュリティクリアランスの導入が大学でも必要になってくるのではないかと考えられます。

個人的な業務としては、いくつかの重要技術や重要製品のサプライチェーン調査に関わっています。そのなかで、産総研などの研究機関の方から技術動向のレクチャーを受けるほか、技術を保有する企業とのヒアリングを行うことが多々あります。大変失礼ながらこれまで名前を存じなかった中小企業の多くに、世界で唯一の技術・高シェア製品があり、ヒアリングの度にそのアイデア、あるいは技術精度などに驚かされます。そうした技術の話の何うのは大変楽しく、また勉強になるとともに、国内で先端的な研究・産業応用が進められていることが心強く、誇らしくも思います。ただ恐ろしいのは、そうした企業の多くに、すでに他国からの誘いの声がかかっていることであり、技術獲得競争の激しさに気づかれません。

●大阪大学－経産省勉強会の立ち上げ

他の業務として、今年度より大阪大学の先生方にご講演いただき、議論を行う場としての勉強会を立ち上げました。当室の田中伸彦室長から勧められたもので、これまで以下の勉強会を開催しています。

第一回 4/28 「量子センシング」

先導的学際研究機構 根来 誠 先生

第二回 5/26 「パワーレーザーがもたらす変革」

レーザー科学研究所 兒玉 了祐 先生

第三回 6/29 「「ゆらぎ」とその融合分野が

もたらす「おもしろい研究」」

生命機能研究科/CiNET/NBIC 柳田 敏雄 先生

第四回 7/29 「3Dプリンティング×原子レベル組織制御」

工学研究科 中野 貴由 先生

また、11月には基礎工学研究科 永妻 忠夫 先生にテラヘルツ波のご講演をいただく予定です。勉強会はいずれも盛況で、100名以上の方から参加いただくことも多くあります。著名な先生方の講演を何うことで、私個人としても大変勉強になっております。この場をお借りして、講師をお引き受け頂きました先生方に深く御礼申し上げます。

この勉強会が盛況であることからもわかる通り、経産省の方は大変勉強熱心で、科学技術情報の取得に貪欲という印象があります。先進技術を起点にした政策立案を進めたい、という目的のためと思われませんが、自身の専門外の知識・情報でも積極的に取り込んでいこうとする情熱を感じます。また、そのためか、大学教員など専門知識を持ち研究を行う人への、省としてのリスペクトのようなものを感じます。

●さいごに

当初は国際レジームなどという単語も知らず、右も左もわからない状況でしたが、前任の先生方をはじめ皆様にご教授いただきました。また、勉強会の実施にあたっては、経営企画オフィスの栗津 邦男オフィス長、江村 勝治先生をはじめ多くの皆様にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

経産省では先端技術に関する知識・情報の取得と分析が求められます。このため、各種技術セミナーや企業ヒアリング、NEDO/TSC戦略技術ミーティング等々への参加が推奨され、これまで聞いたことがなかった様々な技術・研究、企業の取り組みに触れさせていただいています。私の任期はあと一年ですが、省との人事交流は今後も続くと思っています。本稿をお読みの皆様におかれましても、ぜひこの人事交流への参加、あるいは派遣する教員のご推薦を検討いただければと思います。

（電子情報エネ 平成12年卒 原子力 14年前期）